

1. 幕末黎明期における日本の洋服は、筒袖立附、股式の二部構成であったので、製作技術は問題なかった。しかし明治維新以降、欧米文化が輸入され、公式の服装が洋式化され一般市民も和服ばかりでなく洋服への関心が高まり、男子服はもとより婦人服、子ども服が着用されると、従来の和裁技術から洋裁技術へと移行しなくてはならなくなった。そこで当時の洋裁技術内容をあきらかにするとともに現代におよぼした影響について考察をこころみた。

2. 明治期に出版された洋裁書を資料に性別、年齢別、年代別に、現在一般におこなわれている洋服製作順序をもとに検討した。

3. 洋裁書を性別、年齢別にみると、専門家を対照とした男子服が多く、内容も採寸法、体形観察、型紙の補正および伸縮法は現在も使用されている。

明治末年に家庭婦人を対照とした子ども服があるが、内容は子どもの成長を考慮した標準寸法が明記され平面作図のもとになる原型を使用している。